

特集

在宅ターミナル 逝く人の支援を考える

なぜ、いま「地域ケア」が求められるのか

東京都の現況をもとに ————— 村田由佳

在宅緩和ケアの地域連携 ————— 古山綾子・ほか

在宅緩和ケアの整備へ向けて

NPO から保健師・行政への期待 ————— 中山康子

遺族のためのグリーフケア ————— 宮林幸江

ターミナル期における難病支援 ————— 近藤紀子

ターミナルヘルスプロモーションのすすめ ————— 佐甲 隆

コラム 病院におけるターミナル期の個性的な支援

①チャプレンによるスピリチュアルケア ————— 沼野尚美

②緩和ケア病棟での音楽コンサート ————— 上村淑子

編集後記

●冬です。温泉の季節です。この時期、風光明媚な温泉郷を目指し、地方へ旅行する方も多いことでしょう。しかし、東京も捨てたものではありません。『東京銭湯お遍路MAP』（編集：草隆社）はなかなか面白い。各区の銭湯の場所が掲載されているのですが、「あんな所にあったのか!」と思わぬ発見に出会うこと請け合いです。源泉かけ流しの温泉に比べたら泉質は劣りますが、そこは毎るなかれ。東京にだって「いい湯」はあります。

上野池之端にある「六龍鉱泉」はそんな1つ。昭和6年開業。暖簾をくぐるとレトロな雰囲気満載。脱衣所に泉質などが書かれた試験検査書が飾ってあるのですが、その発行元は「東京市衛生試験所」。泉質は「炭酸水素塩冷鉱泉」という黒湯で、肌に優しい。湯船は2つあり、その1つの温度は何と48℃。熱すぎて3秒も入ってられないのですが、江戸っ子のオヤジは平然と浸かっています(まるで、「小僧、まだまだ若いな」と言わんばかりに…)。下町の銭湯魂を感じることのできる稀有な銭湯です。

ここ数年、レジオネラ菌対策で、保健所の指導等により塩素を入れる温泉が全国的に増えているとか。遠くの名湯もいいけど、たまには近くの銭湯に足を運んでみてはいかがでしょうか。 ☺ (和田)

●取材などで現場の保健師さんのお話をうかがっている、個性的な取り組みや、なるほど! と膝を打つ工夫を取り入れていらっしゃる方に出会うことが少なくありません。でもみなさまとても謙虚で、「私ひとりで行ったことじゃないですから」「ほかも同じようにやっているはずですよ」なんておっしゃいます。

今回の特集座談会も同様で、参加者のみなさまは「どうして私が呼ばれたのかしら…」と口々におっしゃっていました。でも、いざ事例について話し始めると、次々に現場での工夫やアドバイスをを出していただき、あらためて経験豊かな保健師さんのすごさを感じさせていただきました。同時に、こうやって蓄えてこられた現場の知を、座談会という形で少しでも紹介させていただけることはとてもありがたいと思いました。

相模原市のガイドライン整備の事例も、そうした「実践の知」を集め、目にもえる形で残そうという取り組みです。読者のみなさまも、きっとそんな実践知をおもちのはず。それを雑誌のうえで紹介させていただき、残していくことは、弊誌の重要な役割だと思っています。研究でも、活動報告でも、どんな形でも結構ですので、情報をお待ちしております! (栗原)

保健師ジャーナル 第64巻2号 2008年2月10日発行(毎月1回10日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2008, Printed in Japan

1部定価1,365円(本体1,300円+税5%) 2008年々ぎめ予約購読料15,000円(税込、送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部(03)3817-5657 社内案内(03)3817-5600

保健師ジャーナル編集室(03)3817-5774 電子メールアドレス hokenshi@igaku-shoin.co.jp 担当/和田・栗原・安部

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670、FAX03-3815-8199)の承諾を得てください。1348-8333/08/¥250/論文/JCLSが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCLS宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。